



学校の校庭が緑の広場に生まれ変わった

芝生果樹園



学校緑化推進事業の一環として、南新浜小学校のサブグラウンドに芝生と実のなる樹木を植えました。

大和田小学校、中国分小学校の校庭にも芝生を敷くなど学校の緑化が進んでいます。

校庭の芝生化は、砂埃が立たず、教室の汚れや眼病が減り、雨が降っても土砂が流れず、転んでもケガをしにくいなどいいことづくめ。さらに照り返しが少なくなると、涼しくなるというのです。緑の広がり子どもたちを「外遊び」へと誘います。

これまで、芝生化は維持管理の問題が



上/南新浜小学校の芝生果樹園「ひかりひろば」のオープニングセレモニー。
左/芝生の開発に携わった千葉大学の浅野義人教授も子どもたちの笑顔にうれしそう。



普通の芝生よりも長く刈られた芝生は裸足でも痛くない。

多く、難しいとされてきました。そこで千葉大学大学院自然科学研究科・浅野義人教授が中心となり、維持管理が容易で、薬剤を使用しない、強い芝生が開発されました。

この広場で、「お昼寝してみたい!」「裸足でドッジボールもできる」と、楽しみをたくさん見つけて児童たちは大喜びです。

街頭指導員が自転車を整列させ、時間の管理も行っている。



ルールをもうけて大成功!

市川駅前放置自転車対策

JR市川駅北口では、駅や商店街を利用する人の放置自転車が問題になっていました。特に買い物客が殺到する午後2時~4時には、歩道に置かれた自転車の列をよけて車道を歩く人もいたほどです。

そこで市では、アイアイロードの一部に短時間の駐輪が可能な歩道駐輪場を整備し、それ以外の場所には駐輪しないルールを利用者の皆さんに守ってもらうよう徹底しました。

これにより駅周辺の放置自転車数は約1600台から240台へと激減(2002年12月時点)、商店街の歩道が歩きやすくなったと好評です。

街頭指導員が駐輪場で自転車をきれいに並べ、時間を超過した自転車の管理をしています。駐輪場の利用者には必ず「いってらっしゃい」「おかえりなさい」など温かい声をかけて利用者との交流を深めています。

ひどいときには駅前の歩道に1500台以上の自転車が3~4列並んでいたが、今では1台も見当たらない。



脚本家・水木洋子さん逝く

蔵書・自宅を市川市に寄贈



水木洋子さん

日本映画の黄金時代とともに歩み、数々の名作を生み出した脚本家の水木洋子(本名・高木富子)さんが、2003年4月8日逝去されました。水木さんのご遺志で、自筆原稿をはじめ、書物や資料、家屋などが市川市へ寄贈されました。

東京・京橋生まれの水木さんが、市川市八幡に移り住んだのは1947年のことです。以来、療養で自宅を離れる1993年まで、46年にわたって住み続けました。

ここからNHK大河ドラマ「竜馬がゆく」、昭和初期から戦後間もない時代にスポットを当てた「おとうと」「キクとイサム」「裸の大将」など多数の名作が生み出されたのです。人間性あふれる暖かな眼差しで庶民の生活や時代背景をていねいに描いた作品は、後に出演者にとっても忘れがたい代表作になりました。

映画「裸の大将」で山下清を演じた小林桂樹さんが2003年7月に水木邸を訪れました。「当時は女性の脚本家は珍しい存在でしたが、こうして生の原稿を見ると大変なエネルギーが必要だったろうと改

水木邸で昔を懐かしむ小林桂樹さん。



2003年8月24・25日の水木邸特別公開には多くの方が訪れた。



この机で多くの作品が執筆された。



オシャレな水木さんをしのぼせる洋服や帽子。

めて思います」と語ります。

数寄屋風の家屋は古くなって一部修復されていますが、家具や着物、愛用した帽子のコレクション、台所に残る生活用品などは、昭和の暮らしをうかがい知る貴重な資料となっています。

現在市と「水木洋子市民サポーターの会」が中心になり、これらの資料整理を行っています。今後は、資料整理や邸宅の準備が整い次第、公開していく予定です。